

明るい小矢部

No.215
2023年1、2月号
12000部発行

発行
日本共産党
小矢部市委員会
小矢部市七社 245
砂田喜昭
TEL 67-4322
FAX 67-4842

万画「寿ぎ」



今年こそ、平和に向けて前進を

市議会議員 上田由美子

今年こそ世界が平和に向けて前進するよう、多くのみなさんと手をたずさえて訴えていきます。

ロシアのウクライナ侵略で、世界的な食糧や燃料の高騰が起き、市民の生活が脅かされています。岸田政権は、敵基地攻撃能力保有を盛り込んだ「安保3文書」を閣議決定しました。これまで基本原則としてきた「専守防衛」に背を向け、戦争に巻き込まれる恐れが大きくなることを心配します。軍事費2倍化は、増税と社会保障費削減で国民の暮らしをますます圧迫します。小矢部市でも、市民の教育や福祉、暮らしを守るための様々な施策の実行が妨げられかねません。

政府の大軍拡を止めさせる以外ありません。平和を築くために力を合わせましょう。



12月議会

上田由美子市議の一般質問



上田市議の一般質問は小矢部市議会のYouTubeでご覧いただけます。

学校給食の無償化

【上田市議】「義務教育は無償（憲法第26条）」であり、学校給食も、食事のあり方、栄養の知識、地域の食文化などを伝える教育の環境、「食育」であり、本来無料とすべきです。全国で無償とする自治体は、1747自治体中256自治体、富山県では朝日町と上市町が無償です。

【教育長】無償化には1億2500万円程度が必要となる。第2子・第3子も含め、給食費の無料化は現段階では実施は難しい。



補聴器助成 もっと多くの人に

市長に要請

年金者組合

小矢部市では22年度に、北陸3県で初の「高齢者補聴器購入費用助成事業」が実施されました。この実現を求めてきた全日本年金者組合小矢部支部の八尾三紀夫支部長らは12月1日、桜井市長に、いっそうの充実と「聴力検診事業」の創設を要請しました。上田由美子市議が同席しました。

市長は「眼鏡のように普及しないといけないものと承知している」、「制度をつくった以上、皆さんに使って頂きたいのでもっと周知に努めたい」、「ニーズがあるようなら、所得制限枠を取っ払ったらどうなるか、額の上乗せや5年後の再助成など調査させて欲しい」、「市が実績を上げ、県・国も動かしたい」と語りました。



桜井市長に要請書を提出する八尾支部長（右から二人目）ら = 12月1日、市役所

有機農産物を学校給食に

【上田市議】いま地産地消を進め、有機栽培の農産物を使った安全・安心な給食を望む声が高まっている。

【教育長】小矢部市産の食材が全

体の25%、1万2kgである。米はすべて市産のメルヘン米や富富富である。有機栽培農産物は、現在は使っていない。

消費税のインボイス制度中止を

免税事業者排除の恐れ

【上田市議】2023年10月から消費税のインボイス制度が実施されると、売上1千万円以下の免税事業者が取引から排除される恐れがある。小矢部市では、物品納入・水道工事受注・学校給食での地元食材納入農家などの免税事業者が、取引から排除されないか。

インボイス制度実施の中止を国に求めてもらいたい。

【総務部長】一般会計と特別会計

は消費税の特例によって申告義務がないので、従前と同様に対応できる。上下水道事業は消費税の申告納付が必要だが、入札資格から免税事業者を排除することはできない。

【上田市議】国では軍事費2倍化のため、増税と社会保障費削減が問題になっている。免税業者を課税業者に転じて消費税の増やそうとしていくのではないか。免税業者に不利益を与えないことを重ねて求める。



年末に日本共産党に加わった方を歓迎する支部会議が、新年早々に開かれた。支部長から『新しい戦前』にしないために、ともい力をあわせていきましょう』と歓迎のあいさつ▼みんなも共産党員として歩んできたそれぞれの人生を語った。「会社」に2つの労働組合、一つは会社側の意向に付度する労組、もう一つは働く人のためにたたかう労組。労資協定の組合を抜け、たたかう労組に加わったら、小さな職場に配転させられた」と▼4年前に入党した若い方「何のためにたたかうの?」。先輩たち「働く環境を良くするためだよ」。若い人「食べていかないといけないから、会社に従わざるを得ないのでは。たたかうという、職場の人たちと仕事を上手に進められるの?」。先輩たちが口々に「仕事はみんなの模範になるようにがんばったよ」。「会社から不当に攻撃されなかったためにもね」。「まわりから信頼されて、たたかう労組に何人も加わったよ」▼昨年は日本共産党創立100周年。小矢部市内にも戦前農民運動をたたかった方もおられた。党富山県委員会の結成総会が市内の民家で非合法で開かれたと耳にしたこともある。共産党が小矢部市議会で初議席を得たのは1970年、大森北治氏である。草の根のネットワークが魅力だ▼岸田政権の軍拡路線に、河野洋平元衆院議長をはじめ自民党の重鎮たちが声を上げている。「戦わな